



Hiroshima City University Language Center

広島市立大学語学センター
Newsletter No.50 (2015.1.15)



広島市立大学開学 20 周年記念 3 号連続特集

《第 2 弾》

語学センター教室 リニューアルレポート

目次：開学 20 周年記念《第 2 弾》

多様な学習形態への支援の強化

語学センター長・国際学部 横山知幸先生・・・ 1

新教室のご紹介・・・ 2

Students' Voice

国際学部 中井遥夏さん・・・ 4

国際学部 宿里一貴さん・・・ 5

なぜ詩か、なんのための「人間の気配」か

名誉教授・芸術資料館もと館長 大井健地先生・・・ 6

イベント報告・・・ 7

知のトライアスロン映画上映会開催・・・ 7

大学英語教育学会（JACET）ご報告とお礼

副学長・国際学部 岩井千秋先生・・・ 8

語学センターでは開学 20 周年事業として、前号から 3 回に分けてニューズレターで特集を組んでいます。今回は、今年度の夏期休暇中に機器更新された新教室を、授業で使用されている先生方のコメントを添えて紹介いたします。さらに、語学センター自習室をよく利用している在学生の声も紹介し、語学センターの今をお伝えできればと思います。

多様な学習形態への支援の強化

語学センター長・国際学部教授 横山知幸

今年度の夏休みに、語学センターの設備更新（第 1 期工事）が行われました。語学センターを通っている廊下の東側で、設備が一新されています。これまで、先進的な機器を用いた様々な取り組みを行うことの出来る場として、多くの人々に評価されてきた語学センターですが、今回は、学生の知性と感性の両面に働きかけ、授業はもとより学生の自主的な学習などを、さらに快適にサポートする場としての働きを強化しています。

今回の更新では、まず、学習者用のコンピュータがノートパソコンになってブースがコンパクトになり、各教室の収容人数も増えていますし、教室全体のデザインも斬新なものになっています。403A 教室は白と黒を基調とした爽やかな雰囲気、403B 教室は茶系にオレンジのアクセントが効いたハロウィーン風に変化し、404 教室は軽やかでカラフルな色合いが強く目にとまるでしょう。もちろん、機能面でも、新しいものが加わっています。404 教室は、これまでは学習者全員が前を向いて授業を受ける普通の教室でしたが、今回の更新ではいくつかのブースが「島」を作るような形式となり、一斉授業だけでなく、学習者がグループごとに別の作業を行うような学習形態にも対応するようになりました。多様な学習形態に対応します。さらに、「グループ学習室」と呼ぶ小教室を新



404 教室 9 月 29 日開催 新教室説明会の様子

設し、柔軟な利用が可能な円形テーブルを中心に、スクリーン兼用のホワイトボードを二面、プロジェクタを三台も設置しているので、利用方法の多様性は非常に大きくなります。ここでも、学生の自主的共同学習の支援が出来ます。

これまで同様、充実した授業録画機能もあり、複数の教室に同じ映像・音声を出力する機能もあるので、研究会・学会などにも柔軟に対応出来ると思います。まだ更新作業は半分しか終わっていませんが、利用方法の可能性はさらに広がっていきます。皆さんの新たな利用の仕方がどうなるか、今から楽しみです。

＊ ＊ 新教室のご紹介 ＊ ＊

今年度の機器更新では、語学センターフロアの半分の教室がリニューアルされ、各教室の個性が以前よりも強くなりました。各教室の特徴をご紹介します。

403 A・403 B 教室 対面型レイアウト 2 教室同時使用で多人数授業が可能

各教室 67 ブース（内、車椅子対応ブース 1） プリンタ 2 台
主な機能：2 教室同時授業、教室録画、通訳訓練（403 B）

対面型レイアウトは、全学生席が教卓向きに整列しているもので、403 A・403 B 教室ともに、固定レイアウトです。2 教室を同時に使用する機能は機器更新前からもありましたが、機器更新後も安定的に利用されています。デスクもコンパクトになり、教員が巡回しやすくなりました。

今回の機器更新で 404 教室が島型レイアウトになったのに伴い、映画視聴など全員でスクリーンに注目するような授業は、こちらの対面型レイアウトの教室が使い易いようです。

403A、403B、404 教室共通 ここが変わった！

教卓

- 主な機能がタブレットでワイヤレス操作可能に。

学生パソコン

- タブレット PC になり、タッチ操作が可能。
- 起動が速く、省エネ。
- 可動アームで PC 位置を動かせる。

ネットワーク

- 教師が持ち込みパソコンをインターネットに無線接続できる。
- Eduroam* も使用できる。
- 情報処理センターの機器更新に伴い、仮想デスクトップの使用も可能。（403 A・403 B、404、自習室のみ。）

デザイン

- スタイリッシュ & コンパクト。

録画機能

- 簡単録画。（教師側、学生側、教師 PC 画面の中から 1～3 画面で mp4 で録画可能。）



教卓部分（403 B 教室）



教員用操作タブレット



教室録画面（3 画面時）

*Eduroam とは、大学等教育研究機関の間でキャンパス無線 LAN の相互利用を実現する、国立情報学研究所（NII）のサービス。



403A 教室：英文作法

“部屋の色が異なるので、学生の顔が識別しやすい。”
—— 情報科学部 高橋雄三先生

“The rooms are more comfortable than other rooms in the university.”
—— 国際学部 Luke Carson 先生

“Easy to walk around in 403A & 403B.”
—— 国際学部 Michael Gorman 先生



403B 教室：日本論

スタジオ編集室 録音ブース採用で、スタジオと編集室を 1 部屋に統合

録音ブース（マイク 2 本）、編集用パソコン、大判プリンタ、会議机、椅子
主な機能：音声録音、映像・音声編集

今回の機器更新で元スタジオ内に録音ブースと編集用パソコンを設置し、元の編集室とスタジオ、2 つの部屋の機能を 1 部屋に統合しました。録音ブースでは 2 名の会話録音ができ、編集用パソコンでは Adobe の Audition（音声編集）と Premiere（映像編集）を使用できます。



スタジオ編集室

404 教室 島型レイアウト グループ学習に便利なグループ内プレゼンテーション機能

95 ブース（内 身体障害者対応ブース 1） プリンタ 2 台
主な機能：403 A 教室授業受信、教室録画、グループ内プレゼンテーション機能

島型レイアウトは、学生席が向かい合わせに島になっているので、グループ学習に向いています。固定レイアウトです。

島型レイアウトの教室、学生席に教材を提示するためのセンターモニタ共に語学センターでは初登場です。

また、学生用の椅子の色（イエロー、オレンジ、ライトグリーン）によって、グループ分けし、3 つのグループ内でプレゼンテーションを行うことができるようになっています。正面の 3 つのプラズマテレビは通常授業時には同じ教材が表示されますが、グループ機能の時には、各グループの前方にあるプラズマテレビがそのグループ専用になります。

403 A、403 B 教室のように、教室間のドアを通して教員が行き来しながらの授業はできませんが、403 A 教室の授業の動画や教員が送出したプレゼンテーション画面を見ながらライブ聴講することができます。

“ビデオ教材を大画面に出して全員で見られるので、雰囲気的に良い。センターディスプレイがいたので、問題や解説を別に出しておけるのが便利。”
—— 非常勤講師 高橋豊子先生

“グループ作業がしやすい。”
—— 国際学部 大庭千恵子先生

“The classrooms are quite comfortable and clean - even more so after the renovation.”
—— 非常勤講師 Kayvohn Kazemi 先生



404 教室：英語コミュニケーション

ホワイトボード面の右方向に教員操作卓がある。教壇はなく、床はフラット。

403A、403B、404 教室共通 パソコン、使用可能教材、機器情報

- Windows 7（Microsoft Office 2010。学内の状況により更新する場合もあります。教員・学生共通。）
- Macintosh OS 10.9.2、（Microsoft Office 2011）
- HDMI、RGB 接続端子（持込パソコン、iPad 等使用可）
- DVD、ブルーレイ、ビデオ、CD、テレビ放送
- 教材提示カメラ、レーザーポインター
- 白黒レーザープリンタ

グループ学習室（新設）、共同研究室 PC画面投影操作简单 回るテーブルで教材配布も

各部屋 12 席（ノートパソコン 12 台）
主な機能：パソコン画面投影（グループ学習室 3 面 / 共同研究室 2 面、 ホワイトボード投影）



グループ学習室：専門演習

“コンピューターを使う時間と使わない時間がある授業において、起動の速いコンピューターを簡単に出入りできることが、最大の利点だと感じました。プリント配布のため、毎週、回る円卓も利用しています。”
—— 非常勤講師 マクリーン真先生

“前期より、学生 PC とプロジェクターが使いやすくなったと思います。”
—— 非常勤講師 黒瀬佳子先生



共同研究室：発展演習

元の編集室が改装され、グループ学習室として生まれ変わりました。ゼミなど小規模の授業でパソコンやインターネットを使うことができます。テーブル裏面に収納されているパソコンは取り出してすぐに使用でき、教員・学生共にパソコンに取り付けてあるボタンを押すだけで自分のパソコン画面をホワイトボードに投影できます。

共同研究室とグループ学習室の機能は基本的に同じですが、グループ学習室のほうが机の形状により、投影画面が 1 面多くなっています。グループ学習室デスク中央は回すことができ、教材配布などに便利です。

Students' Voice

語学センター自習室は、毎日たくさんの利用があります。（平成 25 年度 1 日平均利用者数 131 名。）使用目的は様々で、英語 e ラーニングプログラム（CALL 英語集中）や課題など、授業関連の学習をしている人が多いですが、映画を視聴したりインターネットを利用している姿も珍しくありません。

自習室を利用しているそんな学生さん達の中で、昔も今も、語学センター自習用教材を地道にコツコツと学習する、自習力、継続力のある学生さんが見受けられます。1 つの映画を何度も借りて繰り返し視聴し、字幕で確認しながらリスニング力の向上や表現の習得を目指す人、1 冊の教材が終わるまで毎日のように借りてとことん学習する人。今回はそんな在学学生 2 名に、教材をどのように利用しているか、学習した外国語を活かせる機会があったかどうかと、今後の目標などを書いてもらいました。

大学生活でしたいことを実現する手助けに

国際学部 3 年 中井遥夏

大学に入学して以来、英語教材を借りるなど、日々、利用させてもらっています。

初めて語学センターを訪れたとき、NHK のラジオの教材、English Journal などの語学雑誌、映画の DVD の貸し出しなど、語学を学ぶ教材がたくさんあり、驚いたことを覚えています。大学に入学したら、留学もしたいし、検定試験も受けたい、大好きな海外の映画をもっと字幕なしでみられるようになりたいし、洋書もちょっとでも読めるようになったらいいなと考えていた私には、語学センターは宝の山でした。実際、語学センターを利用して学んだことが、大学生活でしたいと思っていたことの手助けになったように思っています。今までスペインへの短期留学や海外旅行など、様々な外国に行く機会を得ることができたのですが、そこでコミュニケーションをとる際に、言いたいことを外国語で伝えることができた場面もありました。また、つたない英語でもいろんな話をして外国の友達と楽しく過ごしたことはいい思い出になっています。そのコミュニケーション力の基礎になったのは、普段、語学センターで面白いなと思い見ていた海外の映画や検定取得のために頑張っていたことじゃないのかなと感じています。

今は学んだ語学が少しでも活かせる仕事をしたいという目標もあり、資格試験に向けて語学の学習を続けています。好きな海外の映画を見たりするなど楽しみをもちながら、これからも語学センターを利用していきたいです。

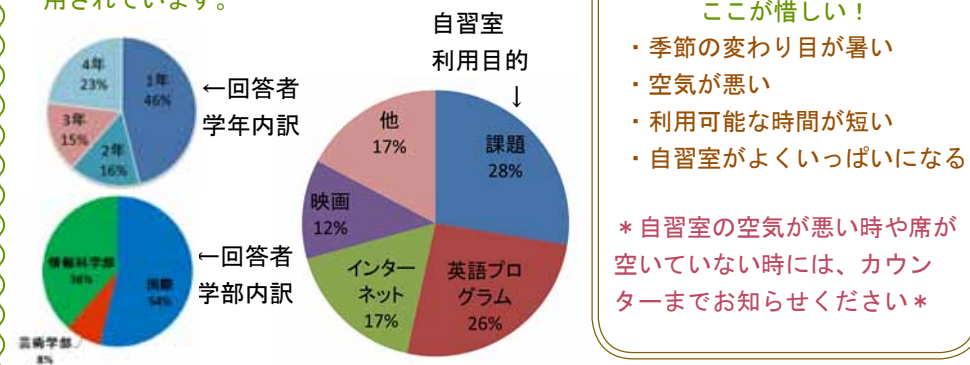


スペインでシェアハウスの友達と

自習室でミニアンケートをしました

11 月下旬、語学センター自習室内で自習している学生さんにミニアンケートを行い、語学センターについてのコメントを集めました。

個室のような空間が好評の自習室は、授業関連の学習、自習、情報収集など、思い思いに使用されています。



語学センターのここが惜しい！

- ・季節の変わり目が暑い
- ・空気が悪い
- ・利用可能な時間が短い
- ・自習室がよくいっぱいになる

*** 自習室の空気が悪い時や席が空いていない時には、カウンターまでお知らせください ***

語学センターのここがお気に入り！

- <ホール>
 - ・大画面で映画を見ることができる
- <自習室>
 - ・1 人の空間
 - ・1 人でゆっくりできる
 - ・机が広い
- <教材>
 - ・DVD や教材がそろっている
- <番外編>
 - ・あったかい

楽しむことを忘れずに

国際学部 2 年 宿里一貴

皆さんは語学センターをどのように利用していますか？

僕は、自習室を外国語の勉強の場として利用しています。具体的には、映画をみたり、貸出教材や CALL をしたりしています。国際学部の人でもご存知ではない方もいると思うのですが、自習室では様々な言語、特に英語の映画やドラマを借りて見ることができます。数も多く、有名なものも多いため映画好きの僕にとっては映画を見ることは楽しみであり、良い英語学習の道具になっています。映画を見ることと共に、カウンター近くにある海外や日本の語学雑誌を見ることができるのも自習室の大きなメリットだと思います。また、TOEFL の対策本を借りることもよくあります。様々な情報を得ることができ、なんといつても楽しむことができるのが自習室の良い点です。実際よく寝てしまうこともあるのですが・・・



English Bay Beach, Vancouver, Canada

「海外の人と友達になって色々話したい」これが一番の英語学習の僕の動機になっています。色々な人と話すことは純粋に楽しいです。表面的な会話、例えば、好きな食べ物は？週末なにをするの？だけで終わるのではなく、さらに深い部分まで話せるようになりたいと考えていました。

目標は、「英語が上手だね」と言われなくようにすることです。以前ホームステイした時に、この言葉を言われました。これを言われるという事は、まだ勉強不足だなと思っています。Flatter であり、決して本当の意味での語学が達者な人ではないと思います。もちろん、本当の気持ちからそう言う人もいますが、僕のようなレベルで「英語が上手」だねと言われるはずがありません。これからも継続して頑張ります。

皆さんは、語学に全く興味をもっていない人はいないと思います。語学を学ぶ目的がなにであれ、楽しいと思える瞬間や目的がないと学習は続かないと思います。もちろん、いつも「うわー楽しい！！！」とは僕も思いません。語学の学習に楽しさが加われば、さらなる語学力の向上に繋がるのではないのでしょうか。



←自習室



408 教室→

自習室、408 教室のリニューアルは平成 27 年度（2016 年）春休み予定

ワイヤレス環境で教室機器を利用しつつ、教室内のレイアウトを自由に変更できる 408 教室は、使用教員から好評を得ています。小グループでの協働学習、2 グループで向かい合っのディベートなど様々な授業が展開されており、今後の期待値が高いユニークな教室と言えます。

それとは対照的に、自習室は文字通り自学習の場で、個室感のあるブースで自習や課題、思い思いの作業に取り組む学生で毎日賑わっています。

408 教室、自習室、そして、事務室と語学センターの入口にあたるホール部分は、平成 27 年度春休みにリニューアルされる予定です。



なぜ詩か、なんのための「人間の気配」か 野田寿子の潮が満ちてくる教室

大井健地（名誉教授・芸術資料館もと館長）

ある図書館の新着図書の棚に、ぶあつい重量級の、900 頁近い『野田寿子全作品集』（土曜美術社出版販売 2012 年 10 月刊）があった。著者本人の寄贈本だった。Ⅰが詩篇で、8 つの詩集と未刊詩編で 327 頁。Ⅱが散文篇で 436 頁。既刊本に『若い教師への手紙』（径書房 1986 年 12 月刊）がある。

野田寿子（1927 年生まれ）は「戦中派」と自称する世代。福岡近辺あるいは九州ではよく知られる人と思うが広島ではどうか。年譜には 1937 年、「母が入っていた広島の短歌誌『真樹』に参加」とある。10 歳の時のこと。

代表作は《月経》（1957 年）、としてよい。出産した年、『夜と霧』読後、衝撃のまま書いたという。大島博光氏がこの詩のために、夜ひとり、乾杯したという。岩波新書、真壁仁編『詩の中にめざめる日本』（1966 年）に収録されて、たとえば僕のごときの眼にも届く。77 年筑摩書房刊の高校国語副読本に収録されたことも記録しておきたい。

この『全作品集』では「月経」以外のもろもろの詩に、ことに野田寿子が福岡の県立高校国語科教師として 30 年間の教室での葛藤から生まれた“学校詩篇”に興味深い、触れて熱いものがあると思う。

次は「作文の時間」という詩、勝手に半分に分けて紹介する。国語科教師が生徒に与えた作文課題のこと。

海といういじわるな題を出して / 見守っている
私 / つかみどころのないこんな題を / 自分ならどう
するだろうと考えながら // そこで生まれつつある
“海” / いきなり怒濤をぶちまけるか / 一滴ずつ沁
み透ってくる寸法か // 教室に潮が満ちてきた / 来
るぞ / 私をひっそらって / 途方もない沖合に投げだ
すぞ // 教卓を防波堤に / 早いとこ集めてしまわね
ばなるまい

生徒への信頼と期待が、楽しく手応えのある授業時間を創造している様子。だが学校はその後どんな雰囲気におちこんでいったか。

詩集「やっぱり歌えない」（1981 年）に収める 3 編から。「職員会議」——「会議がない / 並んでいるのは耳ばかり」

「教師」——「暗い夜を / くらいと / はっきり言えるか」
「家庭訪問」——「源氏物語どころじゃあなかったなあ」
「画にかいた餅ばかり食わせてきた」

この詩集のあとがきには次の文もみえる。

「管理された教師は生徒を管理したがる…管理にはまらぬ生徒は疎外される。しかし生徒は商品ではない。学校は規格品をつくる会社ではない。」

大学生も当然商品ではない。会社御用ではない大学がその大学案内などでさかんに、社会に有用な優等な人材養成を挙げるのをワタシはいぶかる。

学校の縁で好ましい人とのつながりが築けることはある。会社でも、会社でない社会全般でも発見と創造の良い関係は築ける。野田寿子には先達に丸山豊、大島博光、大江満雄、深尾須摩子ら、友に吉本隆明、谷川雁、森崎和江、川崎洋、松永伍一らがいた。

年を経れば人は学校から去る。“詩”は残っているだろうか。「詩集」という詩から後半の 10 行。詩へ向った謎であり問いであろう。

この盛大なことばの列は / いったいどこに向っているのか / なんのために？ / なぜことばで？ // だれも答えない / わからない // そこに在るのは / 生まれてしまった自分をもてあまし / 右往左往する / おびたしい人間の気配である

この「気配」とは詩集というもののへの詩的定義だとも解釈できる。人間の気配がないと詩集とはいえないのだ。



イベント報告

①広島市立大学国際学部特別コロキウム開催

「韓国における日本語教育と外国人としての韓国語習得過程」

2014 年 7 月 11 日（金）に、広島市立大学国際学部特別コロキウムが語学センター 404 教室で開催されました。本学の提携校である韓国西京大学で日本語及び日本文化の授業を担当している泉先生が、韓国における日本語教育、韓国語の効果的な学習方法について講義をしてくださいました。



泉先生の講演の様子

②派遣前留学説明会開催

2014 年 7 月 17 日（木）に、語学センター 408 教室にて、派遣前留学説明会が開催されました。国際交流推進センターのスタッフから、中国・フランス・ドイツへ派遣留学へ行く学生に、現地での学生生活や渡航前の準備等の説明がありました。学生も熱心に耳を傾け、海外事情などについて熱心に質問をしていました。



7 名の学生が参加した

③派遣留学前オリエンテーション開催

2014 年 12 月 12 日（金）に、語学センター 404 教室にて、派遣留学前オリエンテーションが開催されました。ハノーバー専科大学（ドイツ）、アラヌス大学（ドイツ）、ベルリン・バイセンゼー芸術大学（ドイツ）、ハワイ大学マノア校（アメリカ）、西京大学校（韓国）の 5 大学に留学予定の 9 名が参加しました。



真剣に耳を傾ける学生達

④学内長期研修成果報告会の開催

2014 年 12 月 12 日（金）に、語学センター 403A 教室にて、情報科学研究科の田中准教授による学内長期研修成果報告会が開催されました。インド国ウーティ市宇宙線実験施設（GRAPES-3）での研修を終えられ、「宇宙線実験施設（GRAPES-3）における実験施設の保守・拡充と取得データの整理・解析」をテーマに報告をされました。



田中先生の報告会の様子

2014年度後期 知のトライアスロン映画上映会開催



Film About or Influenced By Shakespeare

12 月 8 日（月）～ 12 月 12 日（金）に、語学センターにて、いちだい知のトライアスロン映画上映会を開催しました。国際学部のマイケル・ゴーマン先生にご協力頂き、「言語・コミュニケーション研究入門」との連携企画で行いました。テーマは「Film About or Influenced By Shakespeare」で、劇作家ウィリアム・シェイクスピアにちなんだ作品 7 本を日替わりで上映しました。今回は上映会で見逃した方のために、自習室内でも、上映期間中映画が鑑賞できるようにコーナーを設けました。来年度にも映画上映会を予定しておりますので、ぜひご参加ください。

テーマ：Film About or Influenced By Shakespeare

上映映画：「もうひとりのシェイクスピア」、「勇気あるもの」、「ヒース・レジャーの恋のからさわぎ」、「赤毛のアン」、「いまを生きる」、「ライオンキング」＊番外編：「恋におちたシェイクスピア」（国際学部講義「言語・コミュニケーション研究入門」で使用）



本学で大学英語教育学会（JACET）年次国際大会を開催—ご報告とお礼—

国際学部教授、副学長 岩井 千秋



講堂での講演会の様子

去る8月28日（木）～30日（土）の3日間にわたり、筆者の所属する大学英語教育学会（the Japan Association of English Teachers, JACET）の年次国際大会が本学で開催されました。JACETは全国7支部で構成され、本年は中国・四国支部が開催当番で、かつ筆者が副支部長を担当している関係から、学会からの要請を受けて本学での実施を引き受けることになりました。3日間の参加延べ人数は860名に達し、おそらく本学のキャンパス内で実施された学会としてはこの20年間で最大規模だったと思われます。

まずこのJACETという学会について紹介しておきましょう。

JACETは、大学をはじめとする高等教育機関における英語教育

や言語教育関連の研究と実践を通じて日本の大学英語教育の改善や英語教育全般の向上、発展に寄与することが目的とされています。1962年に創設された老舗の学会で、現在の会員総数は約2,700名です。国内では全国語学教育学会（JALT）や全国英語教育学会（JASELE）などと並び、言語教育関係の主要学会のひとつです（ちなみに筆者はこれらすべての学会の会員でもあります）。海外の学会とも友好提携しており、今回の国際大会でも韓国、中国、シンガポール、マレーシア、タイなどからも代表者が招待されました。

本学での大会は第53回にあたり、全体テーマを“Fostering English Communicative Competence for Peace and Friendship”（「平和と友好をめざす英語コミュニケーション力の育成」）と題して行われました。今や英語はビジネスはもちろん、研究、教育、スポーツなど様々な場面で、言語背景の異なる人たちの間でコミュニケーションの手段として使われます。「帝国主義の象徴」などと批判されることもあります（例えば R. Phillipson, 1992, *Linguistic Imperialism*）、英語を介して人が交流することが言語や文化背景の異なる人たちの理解や友好に繋がるのであれば、人類が共通のコミュニケーション手段を共有することには意義があると言えるでしょう。この学会では、そのような英語能力の育成を視野に入れた試みなどが全体シンポジウムで紹介されるなどしました。発表件数も全部で200余りとなり、これにポスター発表や40社余りの出版社等の展示も加わり、盛大な学会となりました。

学会に際しては本学学生の皆さんにも協力してもらいました。準備を含め4日間の大会業務には全部で約30名に有給でお手伝いをしてもらいました。またアカペラ部の皆さんには200名が参加した懇親会で美声を披露していただきました。学生の礼儀正しさや、英語を使っの対応の手際の良さを多くの先生方にお褒めいただきましたし、懇親会の余興では「あれは本当におたくの大学の学生さんですか？」などといった嬉しいお言葉も頂戴しました。本学教員として鼻高々でした。

最後に、本学会の開催に当たりましては、青木学長に開会式でご挨拶いただきましたし、本部事務局、学部分室、そして語学センター職員の皆さんなど、多くの方々にお力添えいただきました。学会を引き受けたのは1年前で、このような大きな学会を本学で開催できるかどうか不安は尽きませんでしたが、終わってみると大成功、滞りなく学会開催の責務を果たすことができました。お世話になりましたすべての皆様に心からお礼申し上げます。



講義棟ホールでの展示会

発行日 2015年1月15日
発行 広島市立大学語学センター
〒731-3194 広島市安佐南区大塚東3-4-1
編集 堀本真由美、加藤美奈（内線：6410）
Phone (082)830-1509 Fax (082)830-1794
E-mail lang@intl.hiroshima-cu.ac.jp
ホームページ
<http://call.lang.hiroshima-cu.ac.jp/lang/index.html>



◆ 視察・オープンキャンパス等報告 ◆

8月 3日 オープンキャンパス（157名）
8月 8日 市議会総務委員会（15名）
10月 3日 広島県立安芸府中高等学校PTA（20名）
10月 3日 広島県立安芸高等学校（15名）
10月 20日 山口県立高森みどり中学・高森高等学校
PTA（33名）
10月 29日 広島県立可部高等学校（42名）